

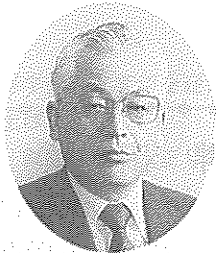
# 同窓会報

第47号

創立80年記念号

平成11年8月17日発行

富山県立上市高等学校同窓会



## 創立80年を迎えて

同窓会長 中川久尚

母校上市高等学校は、大正9年、郡立富山県中新農業学校として産声を上げて以来、幾多の変遷を経て今日にいたり、平成9年度には総合学科として、新しくスタートいたしました。この時に当たり、母校は創立80年というめでたい節目を迎えました。卒業生も2万余名に達し、各地域や各界で大活躍されており、誠に喜ばしい限りであります。

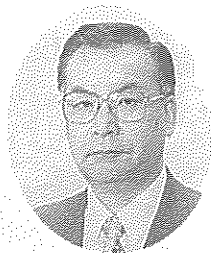
そこで、同窓会としては創立80年を祝い、生徒たちの勉学や部活動に役立つ施設をと考え、記念事業を計画しております。一つは、老朽化した食堂の全面改築であります。きれいなところでおいしく食事をとり、生徒間のコミュニケーションを深めていくためにということで提案されました。今一つは、母校のシンボルである桜並木が老齢化しており、枯れたものも数本あるので、補修を

すればどうかとの提案であります。今も昔も変わらない桜並木、校舎が変わっても昔の姿を残す桜の門を通ることにより、一人一人の若き日をつい昨日のように思い起こせるのではないだろうかとのことであり、二件とも全員一致で決定いたしました。

予算としては総額3000万円、食堂建設費2500万円、桜並木補修費150万円、事務費他350万円を見込んでおります。募金の進め方については、七支部の同窓会員数に按分して目標を定め、目下、各支部において目標達成のため努力をいただいているところであります。

私ども会員としては、誰しも母校の限らない発展を願っております。創立80年を記念する事業については、これまで諸先輩が築いてくださったように、皆さんの格段のご協力をお願いする次第であります。

# 創立80年を迎えて



## 校長 斉木 義和

会員の皆様には、益々ご健勝でご活躍のこととお喜び申し上げます。

日頃から、本校の教育発展と充実にお寄せいただく熱意に厚く御礼申し上げます。

ことに、創立80年記念事業に熱心にお取り組み頂いておりますことに、在校生・教職員とともに深く感謝申し上げます。

おかげをもちまして、春4月、同窓会の創立80年記念事業の一環として補修され、見事に開花した桜並木のもと創立80年目の新入生を迎えることができ、10月23日に記念式典を挙げてまいりました。創立以来、2万余名の卒業生各位のたゆみないご研鑽・ご努力によって、校風と伝統が築き上げられたことに思いを馳せ、深く敬意を表し、各位とともに慶びたいと存じます。

また、平成元年に創立70年の同窓会記念事業として剣嶺会館が竣工されたのに引き続き、この10年間に、第一体育館、テニスコート、弓道場が竣工し、平成10年には、

素晴らしいトレーニングハウスの竣工と教育環境が整備されてまいりました。

さらに、第14期中央教育審議会答申において、中学校卒業生の95%が学ぶ高等学校教育の改革の方向として、「普通科と職業科を統合するような新たな学科」の設置の方針に即し、「高等学校における学習を通して、自己の能力や適性を見極めるとともに働くことあるいは学び続けることの意義や目的を理解することのできる生徒の育成」をめざし、総合学科が設置されることとなり、平成9年度に本校が富山県で2番目の総合学科として設置されてから、今年はいくくも3年目に当たります。

教職員一同力を合わせ、総合学科の意義を活かすべく、峻嶺剣岳を仰ぎ研鑽・実践に励んでおります。

創立80年の節目にあたり、校風と伝統を引き継ぎ、21世紀でのさらなる飛躍・発展に向けて心を新たにしているところでございます。

---

## 教頭 畔田 順一

36年ぶりに母校の門をくぐり、桜並木通りの昔と変わらぬ威風にただ驚かされた。

人々、街並は変われど、学校の桜並木・立山連峰の剣岳は昔と変わらなく、私を迎えてくれた。

立山というのは連邦全体をよんだのだが、剣岳こそ連峰の主峰で偉観である。剣岳はどこから見ても美しいが、学校の往復に東橋より仰ぐ姿がもつとも美しい。その景観は昔も今も毎日、雄大でパノラマのように映るので、まったく飽きがこない。

さて、経済成長をとげた時代からバブルが弾け、世の中全体が底冷えしている現在の社会では、昔を思い出し、少しでも心を癒すことによって、この厳しい時代も、具体的に鮮明に感じられるようになると思う。

四無主義と言われる風潮に流され、ファミコン・携帯電話に振り回されるような時代をも心の中に写生してお

けば、10年先、20年先に思い出深いものとなることと思う。明日は今日に続くというけれども、長い時の流れの中で時代の考え方、人間の生き方も変わって行く。このような時代に、無理をしても無い頭を絞っておけば、文字を残しておけば、自分の生きてきた足跡を、心の揺れを残しておけば、と焦りながらも自分に言い聞かせている。

上市高校も剣岳のように、校舎が変われど、人それぞれの思い出は変わらないでしょう。創立80年を迎えて、同窓生の皆さんも個々奮闘されていることと思います。学校もPTAの皆さんと一丸となって「勤労・自治・向上」の校訓のもとに日々努力しています。皆さんのご支援がいかに生徒の心の支えとなり、明日への力となるかをご理解いただき、今後ともよろしくお願い致します。

最後になりましたが、同窓生の皆様のご発展とご多幸をお祈り申し上げます。

# 創立80年を迎えて

## 募金委員長 富 樫 勇 夫

本校は大正9年に富山県中新農業学校として開校されてから80年の歴史を刻み、時代の幾多の変遷とともに歩んでまいりました。

平成元年に創立70年を迎え、当時、母校の職員としてこの事業に携わらせていただきました。

事業としては記念式典は勿論のこと、朝嶺会館の竣工、校史「70年史」の編纂、多くの町民や同窓生から親まれた三本杉の巨木の一部を朝嶺会館に衝立、校長室にテーブルとして保存いたしました。

当時、同窓会長の故藤原平蔵氏、学校長の故柳瀬菊太郎先生、中島正雄先生、PTA会長の広井昌一氏、西岡勇氏などを筆頭に、先生方のご協力とPTA、同窓会、さらに町当局、地元の企業や商店街の方々に多大なるご理解とご支援を得て、何とかその責任の一端を果させていただきました。

さて、今回の創立80年の記念事業として、生徒が強く要望している新しい食堂の建設（現在使用されている食堂は昭和40年に旧校舎の一部を移築したもので、老朽化が甚しく崩壊寸前の危険建物である）と創立以来、咲き

誇り今は老木となった校並木の一部補修および補植など計画し、募金総額3000万円を目標に、同窓会各支部の役員を中心に懸命の努力をしていますが、不運にも今日の経済不況とめぐり違い、財布の紐も大変固く、なかなか募金に協力していただけないのが実状であります。したがって、食堂の建設も歩き止まっている状態であります。

21世紀の将来を背負ってくれる若人の学び舎の教育環境を少しでも改善し、在校生およびこれから入学してくる後輩諸君に、母校に学んでよかったという成就感、希望と誇りがもてるよう、同窓生として最善の努力をしなければならぬと考えています。

後になりましたが前募金委員長であられました立山支部長の清水勇幸氏が今年1月にご逝去され、急遽、後を継ぎましたが、故人の遺志に報いるためにも頑張りたいと思っています。

創立80年記念を契機に母校の限りない発展と先生方および生徒諸君、同窓会会員の益々のご健勝とご活躍を心からご祈念申し上げます。

## 関東支部長 山 崎 源 吾

母校におかれては、このような変化に柔軟、且つ的確に対応し、自分の個性と能力を伸ばすための教育を目指し、平成9年4月より「総合学科」単独校としてスタートを切られ、そして、立派な教育効果を上げておられることは誠に喜ばしい限りであり、私達も大いに期待しているところであります。

さて、この機会をお借りして、私たち関東支部についてお知らせ致したいと思います。

現在、会員は791名を数え、年1回支部総会を開催し、母校より校長先生や同窓会長をお迎えして学校や同窓会の近況を報告して頂いております。

総会後の懇親会では、学窓の思い出や故郷の事など時間の経つのも忘れ、和やかに楽しく語り合っております。

まだ、参加されていない会員の方も今年から、ぜひお出で頂きたいと思っております。

終りになりましたが、上市高等学校の益々の発展と会員各位のご健勝ご活躍をお祈り申し上げ、お祝いのご挨拶と致します。

上市高等学校創立80年を迎え、誠に喜ばしく心からお祝い申し上げます。

思えば、創立された大正9年当時は、第1次世界大戦による戦後景気から、一転して厳しい経済恐慌に至る時代でありました。

このような中で、学校創設に情熱を傾け、努力されてきた方々に対し心から敬意を表するものであります。

また、創立から今日まで、変らぬ教育の理念「勤労、自治、向上」の校訓のもとで育まれた同窓生は今、2万余名を数え、社会の各分野において活躍されていることは誠に心強く嬉しく思っております。

これはひとえに、深い愛情と情熱をもって導いて下さいました、歴代の校長先生はじめ教職員皆様の御尽力のたまものであり、深甚なる敬意と感謝の意を表するものであります。

ご承知の通り、我が国の教育制度は、社会の変化に対応して、大きく変わってまいりました。

今、世界は激動の時代を迎え、我が国においても、あらゆる分野で急激な変化が進行しております。